

## アライグマ

アライグマ (*Procyon lotor*) アライグマ科 原産地：北アメリカ

導入経緯：1962年に愛知県犬山市の動物園の飼育個体が逃亡し野生化した。人気アニメの影響でペットとして大量に輸入されたが、繁殖期になると気性が荒くなるため、飼い主が手に負えなくなり野外に放棄するケースが多い。また、手先が器用であることから、檻からの逸出などにより野生化したと見られる。

生態：多様な環境に適応できるが、一般的には水に近い場所を好む。雑食性で、動物全般から果実、野菜、穀類等まで食べることから農業被害とともに在来種への影響が危惧される。1歳の雌の妊娠率が66%(北海道浅野正嗣氏の文献から)、2歳以上の雌で96%と繁殖率が極めて高い。2ヶ月の妊娠期間を経て普通は春に3～4頭の子を産む。

### 【調査結果概要】

南相馬市原町区(旧原町市)において平成12年に初めて確認されている。

この個体は、ペットとして飼育されていた個体の逃亡・放逐に由来するものと考えられる。

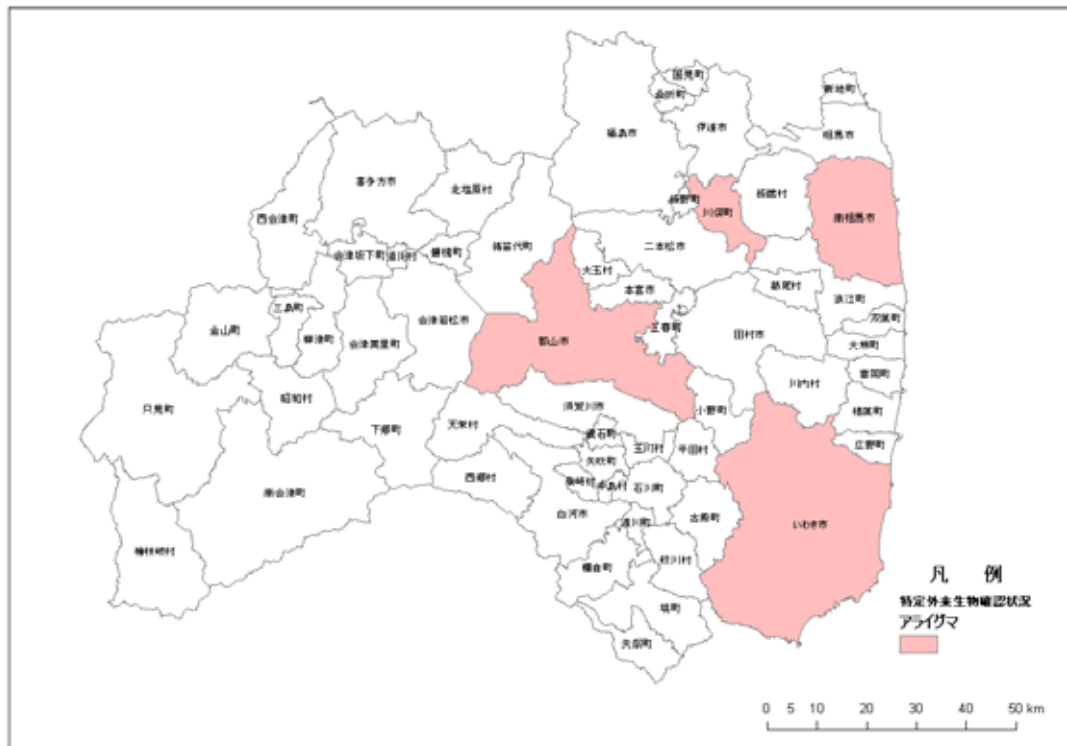
その後、平成17年には郡山市内で、平成18年には川俣町、いわき市で生息が確認されており、アンケート調査による目撃情報等を含めると、県内の8市町村で生息が確認されている。

このことから、浜通り地方では定着の可能性があり、県内においても徐々に生息域を拡大させているものと考えられる。

本種による被害については、南相馬市原町区といわき市において、家屋、屋根裏への侵入ならびに糞尿などによる生活環境被害が報告されている。猪苗代町では、畑のトウモロコシが一部倒され食害に遭うといった小規模ではあるが農業被害が報告されており、今後の被害拡大が懸念される。

また、専門家からは、本種の生息域と絶滅危惧種であるトウキョウサンショウウオ(福島県レッドデータブックカテゴリー：絶滅危惧類)の生息域が重なることから、捕食等による影響の可能性について指摘されている。

文献調査によりアライグマが確認された市町村



アンケート調査によりアライグマが確認された市町村

